Ⅳ－5　商業地における公園・広場の利用者行動

東北大学大学院　学生員　○北山　剛
東北大学大学院　正会員　平野　勝也

1. はじめに

わが国の都市には，多くの公園・広場が存在し，利用者はその利用目的により，様々な場所で行動を起こす．公園等の設計に際し，利用目的と場所の関係が明確にされていることは重要である．公園・広場等の利用者行動に関する研究[1)2),3)]はいくつかあるが，いずれも“利用目的と場所の関係”という観点が欠落しており，それらの関係は明らかになっていない．本研究では，公園・広場における利用目的と場所の関連性から，行動がとられた場所の特徴を明らかにすることを目的とする．

2. 研究方法

利用目的と場所の関連性を捉えるため，仙台市の中心商業地に分布する公園・広場，公園的な利用をされる公開空地において，以下の利用行動調査を行った．

＜調査日時＞

平日と休日の利用目的の違いを考慮し，2002年1月第2，3週の平日・土・日，それぞれ午前11時から午後4時まで調査を実施した．

＜調査対象地＞

公園・広場の規模やその周辺環境を考慮して表1の6箇所を選定した．

表1　調査対象地

分類		名称	周辺環境
大規模公園	①	勾当台公園	オフィス，地下鉄駅
	②	市民広場	オフィス，繁華街
街区公園	③	元鍛冶公園	繁華街
	④	肴町公園	オフィス
	⑤	新伝馬丁公園	ショップ街
公開空地	⑥	Fraternity Park	オフィス，横丁

＜調査方法＞

調査対象地内で観察された利用者行動を図面上に書き込むことにより記録した．

＜調査項目＞

- 利用者属性（表2の12項目を設定した）
- 利用目的（表2の8項目を設定した）
- 利用場所

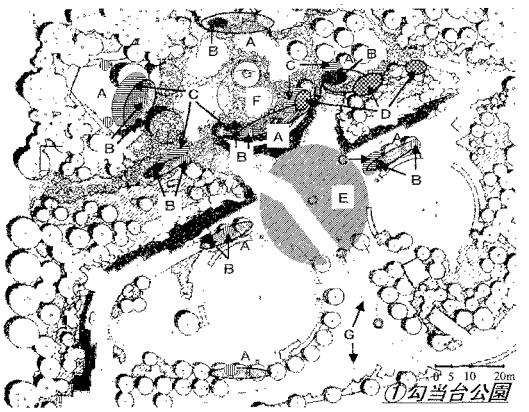
表2　利用者属性・利用目的

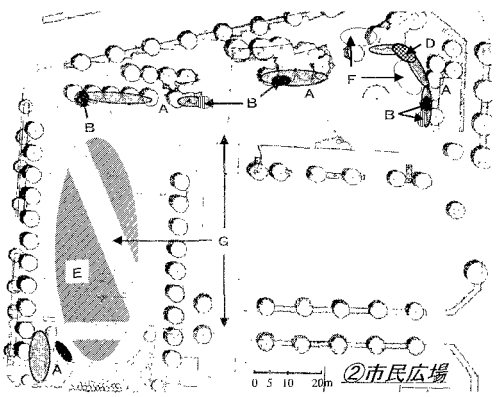
利用者属性							
友人	子供（0歳～小学生）	①	1人	男	青年	⑦
	青年（中学生～20代）	②			中年	⑧
	中年（30代～50代）	③			老年	⑨
	老年（60代～）	④		女	青年	⑩
家族		⑤			中年	⑪
カップル		⑥			老年	⑫

利用目的			
①	休憩	⑤	いちゃつく
②	遊ぶ	⑥	読み・書き
③	細事	⑦	待ち合わせ
④	食事	⑧	通り抜ける

3. 調査結果

利用目的別の利用場所分布から，その傾向を明らかにする．紙面制約の都合上，特徴がよく表れている3箇所（総利用者の分布）のみを図1に示す．





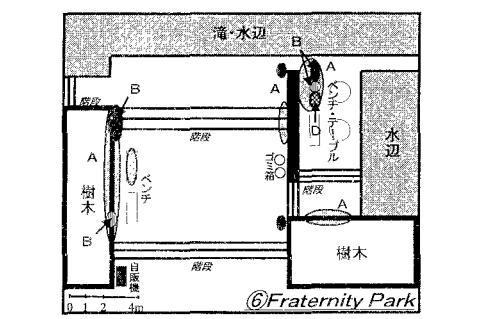


図1　目的別利用場所の分布

図1より利用場所の特徴を分析し，以下に示す7つの分布傾向とその物理的特徴が分かった．図1に示していない調査対象地に関しても，同じような特徴が見られた．また，調査対象地の周辺環境は，利用者の属性やその数，利用目的の多少には影響したが，利用場所の特徴にはあまり影響が無かった．

(1)「休憩」，「細事」，「読み・書き」は全体的に分布する

図1中のA部分を見ると，これら3目的の分布は散在し，重なっている部分が多いことが分かる．利用者は老若男女様々であり，ベンチ等の座れるものに座っていることが多かった．さらに，それぞれの分布の付近には樹木や壁等があり，背後からの視線をある程度遮ることができるようになっていた．

(2)「細事」，「読み・書き」は「休憩」分布の端部である

図1中のB部分を見ると，休憩分布の端部で重なるように分布しているのが分かる．利用者は老若男女様々である．休憩分布の特徴に加えて，その場所の端部が利用されていることが多かった．

(3)「食事」は「休憩」分布と共通部分がある

図1中のC部分を見ると，休憩分布と重なるように分布しているのが分かる．利用者はサラリーマンやOLが多く，お昼休みにお弁当を食べるといった利用である．休憩分布の特徴に加えて，人通りが少なく木陰になるような場所が多かった．

(4)「いちゃつく」は「休憩」分布の一部分である

図1中のD部分を見ると，休憩分布の一部で重なっているのが分かる．利用者は若いカップルである．休憩分布の特徴に加えて，人通りが少なく周囲からの視線があまりないような場所であった．

(5)「遊ぶ」は一部分だが広範囲に分布する

図1中のE部分を見ると，20m～50mの範囲に分布しているのが分かる．利用者は親子，若者が多かった．①では親子が園内にいるハトと戯れたり，写真をとっていた．②では若者がスケートボードや自転車で遊んでいることが多かった．分布は広範囲で，特に①の付近にはハト・水辺等の子供が興味を抱くものがあった．

(6)「待ち合わせ」は一部分に分布する

図1中のF部分を見ると，部分的にしか分布していないのが分かる．利用者は若者が多かった．分布の付近には目印となりうる銅像，円形花壇があり出入口付近である．さらに，人が溜まれるだけの十分なスペースとベンチ等の座れるものがある．

(7)「通り抜け」は直線的に分布する

図1中のG部分を見ると，直線的に分布しているのが分かる．利用者は老若男女様々であり目的地との最短経路を通っていた．路面は歩きやすい石畳かアスファルトになっており，周囲とのレベル差があまり無い．

4. まとめ

以上から，利用目的別に場所の特徴をまとめたものを表3に示す．これは，いままで経験的に知られていた場所の特徴とほぼ一致していると考えられ，本研究により定性的に裏付けられたといえる．

表3　利用目的と場所の特徴

利用目的	場所の特徴
休憩	座れる・背後からの視線を遮る
遊ぶ	広範囲・子供が興味を抱くものがある
細事	座れる・背後からの視線を遮る・端部となる
食事	座れる・人通りが少ない・木陰
いちゃつく	座れる・周囲からの視線が少ない
読み・書き	座れる・背後からの視線を遮る・端部となる
待ち合わせ	座れる・目印がある・出入口付近・スペースがある
通り抜ける	最短経路・歩きやすい路面・レベル差がない

5. 考察

休憩目的で長時間滞在しようとする利用者は，座れる場所の中でも端部を利用し，中部は比較的短時間で利用者が入れ替わっている場面が観察された．これは，利用滞在時間が場所の選択に影響することを示唆していると考えられる．さらに，利用場所として自分と同じような利用目的の人がいる場所が選ばれている場面もあった．これは，利用者の周囲の利用者属性・利用目的が場所の選択に影響を及ぼすことを示唆していると考えられる．今後は，さらなる利用行動調査により，上述のような特徴に関しても明らかにしていく所存である．

参考文献

1) 林東龍，材野博司「広場的空間におけるストリート・ファニチュアに関する利用者の対応行動」第29回日本都市計画学会学術研究論文集 pp577-582，1994

2) 大原学武，窪田陽一「広場の空間構成と利用形態に関する相関分析」土木学会第52回年次学術講演会講演概要集 pp480-481，1997

3) 竹本圭介，横内憲久，岡田智秀「ウォーターフロントプロムナードの空間特性に関する研究－利用者の行動を通じて－」土木計画学研究・講演集 No.24(1) pp21-24，2001